

# 「情報活用能力」の三つの観点を重視した新聞を活用する言語活動 —小学校5年生における年間指導計画—

徳 永 加 代

## 1. 本論の目的

本論では、学習指導要領が求めている「情報活用能力」を育成する学習指導における新聞の情報を活用した言語活動の有効性について考察を行う。特に後ほど詳述する、Ⅰ「情報の精査から構造化へ」Ⅱ「情報の構造化から言語化へ」Ⅲ「情報の伝え合いから考えの形成へ」という「情報活用能力」を育成する三つの観点到焦点を当てる。

## 2. 「情報活用能力」について

### 2.1 学習指導要領に明示された「情報活用能力」

平成29年3月に公示された学習指導要領においては、「教科等を越えた全ての学習の基盤として生まれ活用される資質・能力」として、「言語能力」とともに「情報活用能力」が重視されている。<sup>1)</sup> また、新しい学習指導要領の基礎資料となった、「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会 最終まとめ」(平成28年7月28日)には、次世代に求められる「情報活用能力」の育成について、次のように記されている。(引用中の下線は論者が添えた。以下同様)<sup>2)</sup>

これからの社会を生きる子供たちに、情報を単に受け止めるだけでなく、整理・分析し、まとめ・表現し、他者との協働で思考を深めたりして、物事を多角的・多面的に吟味し見定め、主体的に新たな価値を生み出す力を育むとともに、情報モラルを身に付け、情報社会に主体的に参画し創造していこうとする態度を育てていくことが期待される。

「物事を多角的・多面的に吟味し見定め、主体的に新たな価値を生み出す力を育む」と述べているように、情報活用能力の育成においては、情報を主体的に選択し、自分なりに評価することにより、自分にとって意味のある知見とは何なのかを自覚していくことが求められている。情報を受け止めることだけにとどまらず、情報から得られた知見をより主体的に活用し、自らの考えを形成したり発信したりしていくことが重要なのである。

### 2.2 「情報活用能力」を育成する国語科学習指導

田近海一は、国語教育としての情報受容・活用教育について、次のように述べている。<sup>3)</sup>

情報資料をテキストとしてしっかり読み込むこと・聞くこと（情報受容）そして、受けとめた情報を自分の立場から価値づけして書くこと・話すこと（情報活用）を抜きにして、国語学習として価値ある情報行為は成立しない。

田近洵一は、「情報活用能力」を育成するためには、学習者が情報の受信者から発信者となる学習過程の重要性を示している。国語科において、自分の課題解決に必要な本や資料を探し、それらから必要な情報を取り出し、目的に応じて引用するなどして自分の考えをまとめたり発信したりする学習が必要とされているといえよう。その際、課題解決のために、まず多様な情報の中から必要な情報を収集・選択し、それが自身の求める情報であるかどうか価値判断し、さらに知識として構成したものを吟味しながら、発信していくことが必要不可欠である。

堀田龍也は国語科に期待される「情報活用能力」について次のように述べている。<sup>4)</sup>

今後の国語教育は、情報活用能力の育成の観点からも、様々なメディアによって表現された情報を理解したり、様々なメディアを用いて表現したりするために、信頼性・妥当性なども含め、情報を多角的に吟味して構造化する力や多様なメディアの特徴や効果を理解して活用する力を育成することが求められる。

堀田龍也は、国語教育において「情報を多角的に吟味して構造化する力や多様なメディアの特徴や効果を理解して活用する力を育成すること」を重視している。

例えば、記録や報告をまとめたり、それを発表したり、新聞やパンフレットなどを編集したりするという学習においては、まず課題を明確にして情報を収集し、収集した情報を多角的・多面的に価値判断をして、次に必要な情報を構造化して新たな情報を創り出していくのである。

### 2.3 「情報活用能力」を育成するための三つの観点

「情報活用能力」とは、情報の受信（読み、聞き、理解）と発信（書き、話し、表現）の力である。課題解決のために必要な情報を検索・収集し、分類・整理して価値判断する受信の力と価値判断した情報をもとに新たな情報を創造して発信する力なのである。「情報活用能力」について、中央教育審議会「教育課程部会国語ワーキンググループの審議の取りまとめ」には、次のように記されている。<sup>5)</sup>

これからの子供たちには、創造的・論理的思考を高めるために「情報を多面的・多角的に精査し構造化する力」がこれまで以上に必要とされるとともに、自分の感情をコントロールすることにつながる「感情や想像を言葉にする力」や、他者との協働につながる「言葉を通じて伝え合う力」など、三つの側面の力がバランスよく育成されることが必要である。

また、より深く、理解したり表現したりするためには、「情報を編集・操作

する力」, 「新しい情報を, 既に持っている知識や経験, 感情に統合し構造化する力」, 「新しい問いや仮説を立てるなど, 既に持っている考えの構造を転換する力」などの「考えを形成し深める力」を育成することが重要である。

「情報を多面的・多角的に精査し構造化する力」「感情や想像を言葉にする力」「言葉を通じて伝え合う力」「考えを形成し深める力」に注目したい。「情報活用能力」の育成においては, 言語活動を行う目的や意図を明確にし, 学習者が自らの課題を解決する学習過程が必要である。一人ひとりが課題を設定して情報を検索して選択し, 互いの知見や考えを伝え合いながら, 既に持っている考えの構造を転換し, 考えを形成し深めるのである。情報を理解したり, 表現したりするためにはこれらの力が結びついて働いていかなければならない。

ここに示された「情報活用能力」を育むための7つの力を整理すると, 次の三つの観点になる。

#### I 情報の精査から構造化へ

目的に応じて様々な情報を実際に検索し, 必要な情報を分類・吟味・選択しながら関係づけていく。情報を集めて多面的・多角的に精査し構造化するのである。

#### II 情報の構造化から言語化へ

正確に理解し解釈して分析・評価した複数の情報を関係づけ, 構造化して自分の考えをまとめて表現する。単なる情報の切り張りではなく, 構造化した情報について編集・操作し, 感情や想像を言葉にするのである。

#### III 情報の伝え合いから考えの形成へ

自分が生み出した情報を伝え合い, 既に持っている知識や経験, 感情に統合し構造化したり, 新しい問いや仮説を立てたりすることを通して, 考えを形成し深めるのである。

### 3. 「情報活用能力」の育成と「新聞活用」の関係

#### 3.1 新聞を学習材として活用する価値

小田迪夫は新聞を学習材として活用する価値について次のように述べている。<sup>6)</sup>

言語が伝える情報への興味関心が言語を学ぶ意欲の喚起につながるという心理的原理による指導も必要である。(中略) 学習目標の設定や学習への動機づけ, 情報への興味づけ方によって, 学習者は, 新聞言語の壁を自力で乗り越えていく。新聞情報への知的興味が情報を伝える言語の学習の推進力ともなるのである。

小田迪夫は, 新聞情報への知的興味が学習意欲を高め, 漢字や語句の抵抗を乗り越えて, 主体的な学びへとつながることを示している。一人一人が異なる情報を用意し, 読み取ったことや考えたことを伝え合う学習を積み重ねることにより, 知的興味を広げていくことができるだろう。社会・経済・政治・産業・国際・教育・文

化・スポーツなど多岐にわたる内容の載っている紙の新聞の中から、読みたい記事を探し読むことは、情報を主体的に収集する契機となり、情報を伝える言語の学習につながるのである。

### 3.2 新しい学習指導要領における新聞の活用

新しい学習指導要領において、「情報活用能力」は、より社会的実践力としての「情報活用能力」として求められているため、総則編に新聞を学習材として活用することが例示された。「小学校学習指導要領解説総則編」（平成29年6月）には、次のように示されている。<sup>7)</sup>

各教科等の指導に当たっては、教師がこれらの情報手段のほか、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や情報機器などの教材・教具の適切な活用を図ることも重要である。各教科等における指導が、児童の主体的・対話的で深い学びへとつながっていくようにするためには、必要な資料の選択が重要であり、とりわけ信頼性が高い情報や整理されている情報、正確な読み取りが必要な情報などを授業に活用していくことが必要であることから、今回の改訂において、各種の統計資料と新聞を特に例示している。

つまり、「信頼性が高い情報や整理されている情報、正確な読み取りが必要な情報」として新聞が認められているのである。特に、「正確な読み取りが必要な情報」とあるように、新聞は、同じ出来事を報道するにも各新聞社によって違いがある。したがって、正確な読み取りをするためには、新聞を比較検討していくが必要になる。このことを通して、情報とは主観的・恣意的なものであることを学び、多面的・多角的に精査し構造化する読みにつながるであろう。

## 4. 「情報活用能力」の三つの観点を重視した年間指導計画

### 4.1 年間指導計画の必要性

堀江祐爾は、年間テーマを掲げた国語科年間指導計画について、次のように述べている。<sup>8)</sup>

もちろん、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」のどれもきちんと指導するのであるが、子どもたちの実態や教師の思いをもとに、いずれかの領域や学習活動に焦点を当てた「年間指導計画」を立てることも、教師としての力量を高めていくという点からも、重要ではないだろうか。

堀江祐爾は、学習者の実態に応じた学習活動に焦点を当てた年間指導計画を立てることの重要性を示している。「教師の思いをもとに」とあるように、指導者自身が明確なねらいをもち年間指導計画を立てることは、見通しをもって指導するためにも必要である。年間を通して、学びが総合的に深められるよう、単元相互の関連を重視した年間指導計画を立てなければならない。

表1 「情報活用能力」の三つの観点を重視した新聞を活用する年間指導計画

月	単元名	学習目標	情報活用の育成を重視した学習活動
5	新聞を読もう I [情報の精査から 構造化へ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の新聞記事を読み比べることの意味や効果を知る。</li> <li>見出しやリードから要旨を捉えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞の一面の構成を確認する。</li> <li>新聞読み、新聞の特徴（見出し、リード文など）の意味について考える。</li> <li>同じ出来事について書かれた新聞記事を読み比べ、見出しや写真の違いが読者に与える印象について、考えをまとめる。</li> <li>見出しや写真に着目して興味を持った記事を選び、ノートに貼って、記事に対する感想・意見をまとめる。</li> <li>ノートを交換して、読み合い、感想や質問を伝え合う。</li> </ul>
6	学習に役立つ記事をスクラップしよう I [情報の精査から 構造化へ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞記事を読み学習に役立つ記事と関係した本を紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に役立つ記事を切り抜く。</li> <li>記事のおすすめポイントをまとめる。</li> <li>記事に関係する本を選び、おすすめポイントを書く。</li> </ul>
7 8	新聞をいっしょに読もう II [情報の構造化から 言語化へ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞を読み、記事を選ぶ。</li> <li>選んだ記事に対する意見を聞き、自分の考えを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味を持った新聞記事を切り抜く。</li> <li>記事を選んだ理由や思ったこと、考えたことをワークシートに記入する。</li> <li>その記事について家族や友達と話し合った後の自分の意見や提案を書く。</li> <li>*夏休みの自由課題として取り組み、「いっしょに読もう！新聞コンクール」《(社)日本新聞協会主催》に応募する。</li> </ul>
9 12	私の見つけたピックアップ I [情報の精査から 構造化へ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや意図が伝わるように事実と感想・意見を区別して話す。</li> <li>話し手の意図を考えながら聞き、自分の意見をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞を読み、自分の伝えたい記事を選ぶ。</li> <li>記事に対する感想・意見をまとめ、スピーチ原稿を書く。</li> <li>1分間スピーチとして毎日一人ずつ発表する。聞き手は、話し手の意図を考えながら聞き、自分の意見を書く。</li> </ul>
11	グラフや表を用いて書こう II [情報の構造化から 言語化へ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図に応じて収集した事柄を整理する。</li> <li>図表やグラフなどを用いて、自分の考えを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞の中から自分の考えを裏づける統計資料を探し、表やグラフから事実を読み取る。</li> <li>資料を効果的に用いながら、考えを述べる文章を書く。</li> <li>書いた文章を読み合い、意見や感想を交流する。</li> </ul>
12	時事川柳をつくろう II [情報の構造化から 言語化へ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞を読み、今年話題をもとに川柳を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞記事をもとに、今年話題になったニュースを振り返る。</li> <li>ニュースの言葉をもとに、川柳をつくる。</li> <li>川柳を交流する。校内に掲示する。</li> <li>*「今年の一句」《朝日小学生新聞主催》に応募する。</li> </ul>
1	想像のスイッチを入れよう III [情報の伝え合い から考えの形成へ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例と意見の関係をおさえて読み、メディアとの関わりについて、考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例と筆者の考えを読み取りながら、メディアとのかわりについて考える。</li> <li>気になる新聞記事を選び、批判的に読み、意見を書く。</li> <li>書いた意見を伝え合い、考えを深める。</li> </ul>
2	すいせんします III [情報の伝え合い から考えの形成へ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>理由を明確にして推薦したり、それを聞いたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞記事の中から「推薦したい人」を見つける。</li> <li>推薦理由を「はがき新聞」にまとめる。</li> <li>「はがき新聞」をスピーチメモとして活用し、新聞記事（人物の写真）（新聞記事）を見せながら、推薦のスピーチをする。</li> <li>推薦を聞きながら、「どのような人物か」「質問したいこと」などを考える。</li> </ul>





いう記事を選んだ。そして、**情報を精査し構造化する**ためにワークシート【資料1-2】を活用した。記事の内容をまとめるという学習において『紙じゃありません、電池です。』という記事が、2010年11月11日の朝日小学生新聞にのっていました。これがNECが2013年ごろ実用化にめどをつけている『有機ラジカル電池』です。厚さは0.7ミリほどですが、一度に大きな電流を放電できる特徴があります。【資料1-2】というように、情報を整理し、解釈し、記事の内容の中から有用な言葉を引用しながら、表現している。情報を自分の力によって**精査し構造化している**のである。

さらに、**情報を精査し構造化する**ために「友達やおうちの人に記事を読んでもらい、意見を聞く。」という課題を設定した。「多面的・多角的に」ということを実現するために、「お父さん」「友達」という他者の眼をくぐらせたのである。新聞記事についての確認や補足をするための過程である。

【資料1】の学習者は「お父さんに意見を聞いてみると、このような電池が増えれば便利になるけど、それまで普通の電池を作っていた人の仕事がなくなるかもしれないから心配だ。」という他者の意見を聞くことによって、この記事のもつ利便性と問題点に気づくことになる。同級生のSさんは「やっぱり社会は変化と進化をしているんだなと思った。」と意見を述べている。【資料1-2】

そして、これらの意見を**精査して構造化し**、次のように表現した。「お父さんは、このような電池が増えれば便利になるけど、それまで普通の電池を作っていた人の仕事がなくなるかもしれないから心配だ、と言っていました。ほくは、このよ

（ ） 組 名 前 （ ）

ビックニュースを伝えるために  
\*記事の内容をまとめましょう。

「紙じゃありません、電池です。」という記事が、二〇一〇年十一月十一日の朝日小学生新聞にのっていました。これがNECが二〇一三年ごろ実用化にめどをつけている「有機ラジカル電池」です。厚さは0.7ミリほどですが、一度に大きな電流を放電できる特徴があります。

\*友達やおうちの人に記事を読んでもらい、意見を聞いてみましょう。

\*（お父さん）さんに意見を聞いてみると、  
このような電池が増えれば便利になるけど、それまで普通の電池を作っていた人の仕事がなくなるかもしれないから心配だ。

\*（S）さんに意見を聞いてみると、  
やっぱり社会は変化と進化をしているんだなと思った。

\*記事を読んで感想、意見（記事を読んで考えたことや友達やおうちの人への意見を聞いて考えたこと）を書きましょう。記事の言葉を必ず使って、意見の理由や根拠も書きましょう。

ほくは、このような電池があれば、薄型のものが増えたり、もしかしたらペラペラの機械ができるかもしれないと思いました。ももとの形がガラッと変わって、どんどん変化していくのが楽しみです。

【お父さんやママさんへ】  
文章を書くには「いつ」「どこで」「なにを」「どうしてか」など、かき書かれています。文章を書くお父さんやママさんの手紙は、かき書かれていますか。  
文章を書くおうちの人に文章をかき書かれていますか。  
文章を書くおうちの人に文章をかき書かれていますか。  
文章を書くおうちの人に文章をかき書かれていますか。

資料1-2 記事の内容をまとめるワークシート

うな電池があれば、薄型のもが増えたり、<sup>(ママ)</sup>もしかしたらペラペラの機械ができるかもしれないと思いました。もともとの形がガラッと変わって、どんどん進化していくのが楽しみになりました。】【資料1-2】記事によっては、学習者の読みだけでは理解が難しいこともあるため、保護者の意見を聞くことにより、記事に対する読み取りが確かなものになり、I「情報を精査し構造化する」ことができたのである。

この学習者は、【資料1】のワークシートを見せながら、【資料1-2】をまとめて、1分間スピーチを行った。スピーチの内容は、次のとおりである。

「紙じゃありません、電池です。」という記事が、2010年11月11日の朝日小学生新聞にのっていました。(記事を見せる)

これが、NECという会社が2013年ごろ実用化にめどをつけている「有機ラジカル電池」です。厚さは、0.7ミリほどですが、一度に大きな電流を放電できる特徴があります。

お父さんに意見を聞いてみると、「このような電池が増えれば便利になるけれど、それまで普通の電池を作っていた人の仕事がなくなるかもしれないから心配だ。」とっていました。Sさんに意見を聞いてみると、「やっぱり社会は変化と進化をしているんだなと思った。」とっていました。

ほくは、このような電池があれば、薄型のもが増えたり、もしかしたらペラペラの機械ができたりするかもしれないと思いました。もともとの形が、ガラッと変わってどんどん進化していくのが楽しみになりました。

このように、情報を正確に理解し多面的・多角的に「精査して構造化する」ことにより、自分の考えについて自信をもって表現することができたといえよう。

## 5.2 II「情報の構造化から言語化へ」を重視した単元「時事川柳づくり」

単元「時事川柳づくり」においては、「情報活用能力」を育成するための三つの観点のうちII「情報の構造化から言語化へ」を重視した。単元「私の見つけたビックニュース」において高まった社会の出来事に対する興味・関心をもとに、一年間のニュースを振り返り、多面的・多角的に精査し「構造化して言語化する」学習である。「時事川柳」では、五・七・五という短い言葉によって現実を切り取って表現しなければならない。過去の新聞も読み、印象に残ったニュースの言葉を構造化して交流したのち、それらの言葉を使って川柳を考えたと。そして、自分が作った川柳と川柳に込めた思いを「はがき新聞」にまとめた。<sup>9)</sup>

【資料2】の学習者は、「二刀流 大谷選手 神ってる」という自分が作った川柳について「ピッチャーもバッターも両方できる選手で二〇一六年はそれを生かしてとても活やくしていました。野球をしている人はあこがれるし、野球をしていない人も皆すごいと思える選手だと思いました。二〇一六年の流行語大賞は『神ってる』でした。大谷選手はまさにこの『神ってる』にぴったりの方だと思いました。」と川柳に込めた思いを書いている。記事の内容を読み取り、情報を多面的・多角的に精査し「構造化して言語化した」ことがわかる。新聞を活用した様々な言語活動を



通して、社会の出来事に興味・関心が高まり、幅広く情報をつかむことができるようになってきたことがうかがえる。見出しの言葉として使われていた「二刀流」や流行語大賞の「神ってる」を使うなど、言葉への関心も高まったといえるだろう。

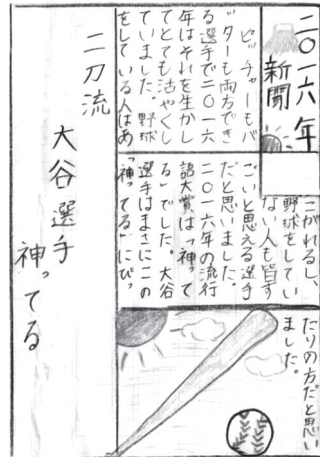
この川柳は「今年的一句」（朝日小学生新聞主催）に選ばれ、朝日小学生新聞（平成28年12月31日）の紙面に掲載された。学習者は時事川柳づくりについて「一年間のニュースから伝えたい事柄を絞るのは難しかった。ニュースの言葉を交流したので、様々なニュースがあることがわかった。二刀流について意味を調べ、大谷選手のすごさを表現するための言葉を考えた。一番言いたいことを言葉にする新聞の見出しを考えるとときと同じようにした。」と振り返っている。このように、多面的・多角的に精査し「**構造化して言語化した**」ことを自覚することができているといえるだろう。

### 5.3 Ⅲ情報<sup>①</sup>の伝え合いから考え<sup>②</sup>の形成へ<sup>③</sup>を重視した単元「すいせんします」

単元「すいせんします」では、「情報活用能力」を育成するための三つの観点のうちⅢ情報<sup>①</sup>の伝え合いから考え<sup>②</sup>の形成へ<sup>③</sup>を重視した。単元「私の見つけたビックニュース」において学んだ記事について伝え合う学習を、人物に焦点を当てて行ったものである。つまり、情報を集めて多面的・多角的に精査し構造化し、感情や想像を言葉にして伝え合い、「**考えを形成する**」という学習になっている。

【資料3】の学習者は「50歳のメダル 亡き子に誓う」という見出しの車いすマラソン山本浩之選手の記事を選び、1分間スピーチを行った。記事の言葉に傍線をつけ、情報を精査し構造化して考えたスピーチの内容は、次のとおりである。

山本浩之さんは、20歳の時にバイクを運転中の事故で下半身が動かなくなり、車いす生活になってしまいました。そこからリハビリが始まったそうです。どれくらい努力をしたのか書いていませんが、パラリンピックは、2008年の北京に初出場し、金メダルと約5秒差の1時間23分22秒で6位に入賞したと書いてあるので、きっと厳しいリハビリを頑張ったのだと思います。12年のロンドンでは、他の選手と接触してタイヤが外れ、22位に終わりました。とても悔しかったのだと思います。帰国すると外国トップ選手の動きを動画で分析してフォームを抜本的に改造して苦手な坂道にも強くなった選手です。調べてみると、リオパラリンピックでは、12位という結果でした。これからもがんばってほしいと思います。



資料2 時事川柳をまとめた  
「はがき新聞」

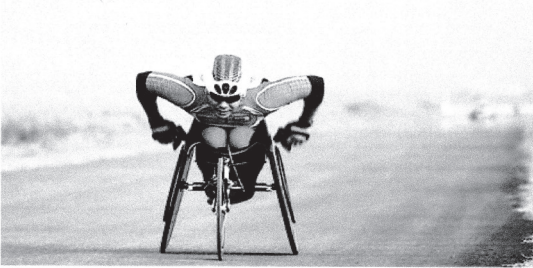
# 50歳のメダル亡き子に誓う

## 車いすマラソン 山本

リオデジャネイロ・パラリンピックに向け、「中年の星」が最後の仕上げをしている。車いすマラソンの山本浩二(50)福岡市、同年代の人たちのため、そして亡き長男のため、3度目の大舞台でメダル獲得に挑む。



**パラリンピックのマラソン**  
距離は健常者と同じ42.195\*。視覚障害や車いす使用など、障害に応じてクラスが分かれている。車いすマラソンのトップ選手のスピードは、平地なら時速40\*以上に達する。ロンドン大会の車いすマラソン男子の優勝タイムは1時間30分20秒だった。



追い込みの練習をする山本浩二(長崎県諫早市)

## 衰え乗り越え「中年の星」に

8月中旬、長崎県諫早市。梶野の果てまで平地が広がる干拓地を、山本が競技用車いすですて疾走していた。平地の多いリオを想定し、この場所を開扉直前の強化合宿地に選んだ。日本パラ陸上競技連盟によると、世界で活躍する車いすマラソンの選手は20、40代が中心で、50歳は過去の日本代表でも最高齢。だが、山本は一坂が多いと体力や腕力がある若手に有利だが、リオはメダルのチャンスがある」と話す。集団にいて風をよけ、体力を温存しながら最後に抜け出す駆け引きも重要だといふ。

20歳のとき、バイクを運搬中の事故で下半身が動かなくなり、車いす生活に「後悔しても始まらない」とリハビリで始めた車いすバスケットの練習を始めた。本格的に取り組んだのは30代半ばから。「元々風を切って走るバイクが大好きだった。車いすマラソンのスピード感がたまらない」と語る。

パラリンピックは2008年の北京で初出場。金メダルリストと約5秒差の1時間23分22秒で6位に入賞した。12年のロンドンでは他の選手と接触してタイヤが外れ、22位に終わった。帰国すると外国のトップ選手の動きを動画で分析。フォームを抜本的に改造すると、スピードが増し、苦手な坂道にも強くなった。

11年、福岡県で長男寛大さん(当時16)が飲酒運転の車にはねられて亡くなった。いつも試合会場で声援を送っていた息子。来られない時も棉筆すると必ず「記録はどうだった」とたずねてきた。

山本は年齢を重ねるにつれて疲労がたまりやすくなり、故障も増えた。合宿中も首に経験のない痛みを感じた。ふと、限界が頭をよぎる。そんなときは、自分にごう語りかける。「寛大は生きてくても生きられない

だった。苦しいけどやらない。同じ年頃の人から「見てなんだ」  
「そんな応援が励み。同世代のためにもメダルを取りたい。そして、今度こそ寛大に良い報告をしたい」(寛電太)

資料3 学習者が選んだ新聞記事  
朝日新聞 2016年9月7日 朝刊  
(記事の中の傍線は、推薦理由として使いたい言葉に、学習者が引いたものである。)

学習者は、記事をテレビモニター画面に映しながらスピーチをした。そのスピーチを聞いた学習者は【資料4】のように考えを形成している。

Sさんは「車いすマラソンについて」に反応し「パラリンピックの他の競技についても知りたくなりました。」とあるように、パラリンピックへの興味・関心が高まったことがわかる。Yさんは「22位になった時点で、私ならあきらめてしまうと思います。」と、自分と比較しながら「山本さんは努力家だと思いました。」と意見を述べている。Nさんのように「見出しの言葉に『亡き子に誓う』とあるのはなぜですか。」と見出しの言葉が気になる学習者もいた。Hさんは「写真から真剣に練習していることが伝わってきた。山本さんはかっこいい。」と、写真の効果について気づいている。このようにスピーチを聞いて、それぞれが考えを形成していることがうかがえる。

発表者は、「亡き子に誓う」について触れなかったことに対して「この記事を書いた記者は、息子さんを心の支えにしていることを強調したかったのだと思う。私は、記事や写真から山本さんが努力をしていることが伝わってきたので、それを推薦理由にした。」と述べている。自分と他者の考えを比較し、共通点や相違点を整理して振り返り、発表者自身の考えを形成しているのである。

## 6. 考察

5年生(62名)に対して、3学期末に行った「学習の振り返り」の結果、学習者が考えた「情報活用能力」を育成するための三つの観点を重視した新聞を活用する言語活動により、身についた力は次の表の通りである。

学習者が考えた身についた力	「情報活用能力」を育成する三つの観点
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新聞を読んで、ニュースを探すこと。</li> <li>• 新聞の中から、活躍している人を探す力。</li> <li>• 新聞を読むと難しい記事もあったけど、わかりやすい記事もあり、読み取りの力が身についた。</li> <li>• 新聞に興味を持つことができた。普段も、新聞を見ていろいろなニュースを探すことができています。</li> <li>• 新聞を読んでいるうちに、5W1Hを読み取る力がついた。</li> <li>• 自分が選んだ記事を読みながら、大事なところに線を引き、記事内容をまとめる力。</li> </ul>	I 情報の精査から構造化へ

### 資料4 スピーチを聞いた学習者の意見

車いすマラソンについて初めて知りました。50歳で挑戦するなんてすごいです。パラリンピックの他の競技についても知りたくなりました。(Sより)

22位になった時点で、私ならあきらめてしまうと思います。外国トップ選手の動きを動画で分析してフォームを抜本的に改造するなんて、山本さんは努力家だと思いました。(Yより)

見出しの言葉に「亡き子に誓う」とあるのはなぜですか。(Nより)

写真から真剣に練習していることが伝わってきた。山本さんはかっこいい。(Hより)

<ul style="list-style-type: none"> <li>• 記事を読みながら、意見を考えるようになった。</li> <li>• 新聞の記事を読み、<u>他の人に説明ができるように短くまとめる力。</u></li> <li>• 5W1Hを読み取り、<u>ニュースの内容をまとめる力。</u></li> <li>• 父や母に意見を聞いて、<u>それについて提案をかくのが難しかったけれど、考える力が付いたと思う。</u></li> <li>• <u>選んだニュースを事実と意見をわけて話す力。</u></li> <li>• <u>記事の言葉も使って選んだ理由や意見を書く力。</u></li> <li>• <u>記事の内容と自分を引き付けて考えたことを書く力。</u></li> </ul>	II <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報の構造化から言語化へ</span>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>新聞記事をまとめているときやわからないときにいろいろな人と話し合うこと。</u></li> <li>• <u>相手の話を聞いていると一番伝えたいことがだんだんと分かってきた。</u></li> <li>• <u>家族やみんなの意見を聞いて、それをもとに記事を取り上げまとめられたこと。</u></li> <li>• <u>スピーチを聞いて、自分では気づかないことを発見できた。</u></li> <li>• <u>新聞スピーチの内容を他の人と違う視点から聞くことを心がけた。</u></li> <li>• <u>自分のことと比べて聞く力。</u></li> <li>• <u>記事の内容と自分を引きつけて考えたことを書く力。</u></li> <li>• <u>話し手の意図を考えながら聞き、自分の意見を書いた。</u></li> </ul>	III <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報の伝え合いから考えの形成へ</span>

#### I 情報の精査から構造化へ

「5W1Hを読み取る力」「自分が選んだ記事を読みながら、大事なところに線を引き、記事内容をまとめる力」のように、情報を集め多面的・多角的に精査して構造化する力が身についたと実感していることがわかる。このように、I 情報の精査から構造化へを重視した学習により、学習者が情報を収集して分析・評価したり、価値判断したりすることにより、情報を整理し、関係づける力が身につくのである。

#### II 情報の構造化から言語化へ

「他の人に説明ができるように」「ニュースの内容をまとめる力」「記事の言葉も使って選んだ理由や意見を書く力」というように、相手を意識しながら、情報を編集し、自分の意見をまとめていることがわかる。これはII 情報の構造化から言語化へという観点を重視することによって、身についた力ということができよう。「記事の内容と自分を引き付けて考えたことを書く力」とあるように、単なる情報の切り張りではなく、再構成へと結びつき、情報を編集・操作することができたといえる。

#### III 情報の伝え合いから考えの形成へ

「いろいろな人と話し合うこと」「相手の話を聞いていると」「家族やみんなの意見を聞いて」「自分では気づかないことを発見できた」というふうに、情報を伝え合い、考えを深めていることがわかる。そのうえ「他の人と違う視点から聞く」「自分のことと比べて」「自分と引きつけて考えたこと」「話し手の意図を考えなが

ら」とあるように、自分が表現した情報を他者の表現した情報と比較して、情報の選び方や表現の仕方についてなど、自らの情報活用について振り返ることができた。これはⅢ「情報の伝え合いから考えの形成へ」という言語活動の繰り返しによって身についた力ということができるだろう。

これらの考察の結果、「新聞を活用する言語活動」を年間指導計画の中に位置づけ、しっかりと展開することにより、「情報活用能力」を育成するための三つの観点Ⅰ「情報の精査から構造化へ」Ⅱ「情報の構造化から言語化へ」Ⅲ「情報の伝え合いから考えの形成へ」を満足することができ、それによって「情報活用能力」を身につけることが明らかになった。

## 7. 成果と課題

今回は、Ⅰ「情報の精査から構造化へ」Ⅱ「情報の構造化から言語化へ」Ⅲ「情報の伝え合いから考えの形成へ」という「情報活用能力」を育成する三つの観点を重視し、新聞を活用した言語活動を年間通して繰り返し行った。これらの言語活動を通して「情報を集めて多面的・多角的に精査し構造化する力」「構造化した情報についての感情や想像を言葉にする力」「伝え合った情報を基に考えを形成し深める力」が身につき、「情報活用能力」の育成につながることを確認できた。

今後の課題としては、学習者の発達段階に応じた指導の重点化と具体化を図り、「情報活用能力」を育てることを挙げることができる。より系統的な指導計画を立て、様々なメディアを活用した「情報活用能力」の育成のための言語活動を開発していきたい。

## 付記

本研究は、兵庫教育大学言語表現学会の平成28年度「研究活動のための研究費助成」による成果の一部である。

## 注

- 1) 文部科学省「小学校学習指導要領」平成29年3月 第1章第2 2(1) 4頁
- 2) 文部科学省「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会 最終まとめ」平成28年7月28日 6頁
- 3) 田近洵一「情報受容・活用教育の課題」『月刊国語教育』No.212 1998年 15頁
- 4) 堀田龍也「国語科の授業に期待される情報活用能力とは何か」『日本語学』No.457 2016年 10頁
- 5) 中央教育審議会「教育課程部会 国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（報告）」平成28年8月26日 5頁
- 6) 小田迪夫・枝元一三編著『国語教育とNIE —教育に新聞を！』1998年6月 4-5頁
- 7) 文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」平成29年6月 84頁
- 8) 堀江祐爾『国語科授業再生のための5つのポイント —よりよい授業づくりを

めざして―』明治図書 2007年 32頁

9)「はがき新聞」の用紙については、公益財団法人理想教育財団の助成を受けている。

## 参考文献

文部科学省「情報教育の手引き」平成2年

文化庁『新「ことば」シリーズ9 情報化時代の言語能力』大蔵省印刷局 平成11年

文部科学省「情報教育の実践と学校の情報化 新「情報教育の手引き」」平成14年6月

文部科学省「初等中等教育の情報教育に係る学習活動の具体的展開について」平成18年8月

文部科学省「教育の情報化に関する手引き」平成22年10月

文部科学省「教育の情報化ビジョン～21世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して～」平成23年4月

文部科学省「21世紀を生き抜く児童生徒の情報活用能力育成のために」平成27年3月

日本NIE研究会編『新聞でこんな学力がつく』東洋館出版社 2004年

日本NIE学会『情報読解力を育てる NIE ハンドブック』明治図書 2008年

小原友行・高木まさき・平井氏隆敏編著『はじめて学ぶ 学校教育と新聞活用  
―考え方から実践方法までの基礎知識―』ミネルヴァ書房 2013年

## 追記

本実践は、堺市立新浅香山小学校の倍菜穂美先生に多大なる協力をいただいた。厚く感謝申し上げたい。

(とくなが かよ・帝塚山大学)